

8 国際化する日本

1 主 題 外国人の人権

2 主題・教材について

日本における2014（平成26）年末の在留外国人数は2,121,831人で、前年末に比べ55,386人（2.7%）増加している。奈良県における同年末のそれは11,081人で、その多くは、歴史的経緯に由来する在日韓国・朝鮮人に加え、近年増加している中国人やフィリピン人、ブラジル人などである。さらに、少数の在住者も含めると、国籍は92カ国に及ぶ。また、国籍に関係なくそのルーツをたどると外国につながる人も、この日本社会には少なからず生活している。

このように、日常的に国際化が進む中、日本人が外国の文化を身近に感じるが増えている。その一方で、日本人の抱く「外国人」に対する画一的なイメージにより、時として、一人一人の外国人の個性が否定され、外国人にとって暮らしにくい日本社会が形成されることが懸念される。

また、言語、宗教、習慣等の違いから、外国人に対する就労における差別や入居・入店拒否など様々な人権問題も発生している。さらに近年は、特定の民族や国籍の人々を排斥する趣旨の憎悪表現（ヘイトスピーチ）まで発生している。ヘイトスピーチは、人々に恐怖感や不安感、嫌悪感を与えるだけでなく、人としての尊厳を傷つけたり、差別意識を生じさせたりすることにもつながりかねず、大きな社会問題にもなっている。

この教材では、自身の外国人に対する見方を問い直し、外国人や外国にルーツのある人々の現状や願いを知り、文化や言葉の違いを尊重しながら、外国人にとっても暮らしやすい社会の実現に向け、共に生きていこうとする態度を育てたい。

- ### 3 ねらい
- 日本に暮らす外国人や外国にルーツのある人の願いに寄り添う態度を培う。
 - 国際化に向け、違いを豊かさとして捉えることのできる技能を身に付ける。

4 展開例

過程	主な学習活動	指導上の留意点	備考
導 入	自身の外国人に対する見方を問い直そう。		
	<ul style="list-style-type: none"> • 本文（P.30）を読み、3レーンの選手が速いと「普段陸上とは縁のない人たち」が思った理由、自分自身が速そうだと考えた人及びその理由について、グループで意見を交換する。 • 他にも、外国人に対する決めつけはないかを考え、そのことが当の外国人にどのような思いを抱かせるかについて話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> • 日本人には、「アフリカ（にルーツのある）人は走るのが速い」という固定観念が少なからずあることに気づかせたい。 • 自由に発言する雰囲気を大事にしつつ、外国人に対するあざけりとならないよう配慮する。 • もしそのようなになった場合は、毅然とした態度で、この状況が外国人にどのような思いを抱かせるかをしっかりと考えさせたい。 	
展 開	外国人から見た日本社会について考えよう。		
	<ul style="list-style-type: none"> • 本文（P.31）を読み、「私たちのことを理解しようとしてくれる日本人」とはどのような人か、在日外国人が日本社会に求めているものは何かをテーマに話し合う。 • グラフ（P.31）から、日本社会の国際化の現状について意見を交換する。 	<ul style="list-style-type: none"> • 「私たちのことを理解してくれない～このことを忘れたくないと思います。」に注目させる。 	

「本当の国際化」について話し合おう。	
展 開	<ul style="list-style-type: none"> • ヘイトスピーチについて知っていることを交流する。 • 本文（P.32～P.33 L.8）を、以下のような視点で読み深める。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ 「『やめてほしい』という悲しみ」はだれに向けられたものか。なぜそのような悲しみを抱いたのか。 ▶ 「二年前のある出来事」における「若いスーツ姿の男性客」「他の客」「僕」は、それぞれどのような人か。自分自身と比べて共通点はないか。 ▶ 「偏った価値観や、国籍などの情報にとらわれることなく、同じ人間として、その人の内面を捉えることのできる幅広い心の持ち主」であるために何が必要か。 • 「本当の国際化」とは、どのような状態を指すかについて意見を交換する。 • 「本当の国際化」を進めるにあたり、ヘイトスピーチがどのような影響を与えるかについて考える。
ま と め	<p style="text-align: center;">学習をふり返ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 学習の中での気づきや学びをふり返る。

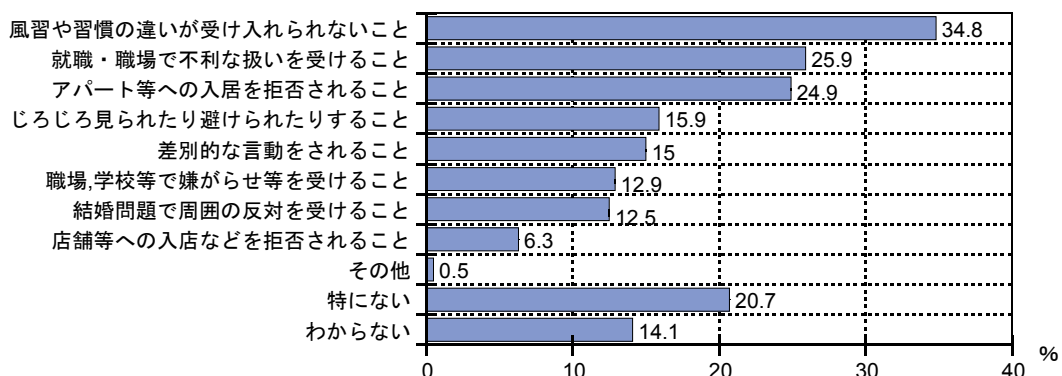
《参考》

◆外国人に関する人権問題

日本に居住している外国人に関し、現在、どのような人権問題が起きていると思うか聞いたところ、「風習や習慣等の違いが受け入れられないこと」を挙げた人の割合が34.8%と最も高く、以下、「就職・職場で不利な扱いを受けること」（25.9%）、「アパート等への入居を拒否されること」（24.9%）などの順となっている。なお、「特にない」と答えた者の割合が20.7%、「わからない」と答えた者の割合が14.1%となっている。（複数回答、上位3項目）

都市規模別に見ると、「就職・職場で不利な扱いを受けること」、「アパート等への入居を拒否されること」を挙げた人の割合は大都市で高くなっている。

年齢別に見ると、「風習や習慣等の違いが受け入れられないこと」、「就職・職場で不利な扱いを受けること」を挙げた人の割合は20代から50代、「アパート等への入居を拒否されること」を挙げた者の割合は30代、40代で、それぞれ高くなっている。



（内閣府「人権擁護に関する世論調査」〔平成24年8月調査〕を加工して作成）

◆ステレオタイプ、偏見、差別について

<p>ステレオタイプ</p>	<p>特定の人たちに対する決めつけたものの見方。 〔例〕 ・日本人は勤勉だ。 ・最近の若者は礼儀を知らない。 など ステレオタイプなものの見方は、一人一人の個性を捉えることを困難にしたり 個性的な部分を否定したりすることにつながりがちである。 ステレオタイプなものの見方のおかしさに気づくには、次のようなアクティビ ティが有効である。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; background-color: #e0f2f1;"> <p>アクティビティ [無理のある三段論法] 1. 次のような論理の展開を「三段論法」として紹介する。 ①今日は7月だ。 ②今日は暑い。 ③だから、7月は暑い。 (A=B) (A=C) (→B=C) 2. 次のような例文を示し、感じたことを話し合う。 (1) ①うちの犬は白い。 ②うちの犬は人なつこい。 ③だから、白い犬はみな人なつこい。 (2) ①ボビーはアフリカ出身だ。 ②ボビーは足が速い。 ③だから、アフリカ出身の人はみな足が速い。 (3) ①アサオは高校生だ。 ②アサオはよく言い訳をする。 ③だから、高校生はみな言い訳をする。</p> </div>
<p>偏見</p>	<p>具体的な事実の裏付けがないままに、特定の人あるいはグループに対して抱く 善悪や好悪などの態度。 〔例〕 ・(上の例文2-(3)に、次の文を加える。) ④高校生はみな言い訳をするから腹が立つ。</p>
<p>差別</p>	<p>具体的な事実の裏付けがないままに、特定の人あるいはグループに対して抱く 善悪や好悪などの判断に基づく不公正な行為、処遇。 〔例〕 ・(上の例文④に、さらに次の文を加える。) ⑤ 高校生はみな言い訳をして腹が立つから、何を言っても 無視する。</p>

憎しみのピラミッド
 ステレオタイプは、偏見、差別に結
 びつきやすい。このピラミッドのよ
 うに、エスカレートしないために、
 どうすればよいかを考えさせる。

